

巻頭言 一着任のごあいさつー



<看護部>

小池 あつ子 次長

このたび、昭和医科大学横浜市北部病院 看護部次長に着任いたしました小池あつ子と申します。

これまで昭和医科大学藤が丘病院にて、長年にわたり臨床・管理の両面で経験を積んでまいりました。現場では、患者さん一人ひとりに寄り添う看護の力、そして多職種が連携して治療とケアにあたるチーム医療の重要性を日々実感してまいりました。看護職が果たす役割の大きさと、その専門性の高さに誇りをもって仕事をしてきたことは、今も変わりません。

その中で、認定看護管理者の資格を取得し、医療安全管理者などの役職を歴任してまいりました。特に安全管理や業務全般の運用・改善といった分野には継続的に携わっており、職員が安心して働ける環境づくりに力を注いできました。現在、私は看護部において「業務・診療録担当」としての役割を担っており、看護業務の効率化や記録の質の向上、現場の負担軽減などに取り組んでまいります。

さらに、今後の医療提供体制の強化に向けて注目されている「遠隔ICU」の活用についても、推進の立場として関わってまいります。これらの取り組みを通じて、患者さんにとってより安全で質の高い看護の提供ができるよう努めていきたいと考えております。

藤が丘病院と北部病院、両方の風土や役割を理解していることは、私の大きな強みです。大学病院としての使命や機能を共有しながら、それぞれの地域に根差した医療の形を肌で感じてまいりました。こうした経験を活かし、両病院間の連携をはじめ、看護部全体の相乗効果を生み出せるよう取り組んでまいります。

また、地域に根ざした病院の一員として、患者さんやご家族の安心につながる看護を提供し続けることが、私たち看護職の責務だと考えております。地域社会の一員として信頼される看護部であるために、地域とのつながりを大切にしながら、貢献できる取り組みにも積極的に関わってまいります。

看護部次長として、看護部の取り組みに積極的に関わりながら、看護職員が専門性を発揮し、安心して力を出せる職場環境を整えることが、私の役割だと考えています。そしてそれが、患者さんにとってより良い看護の提供につながると信じております。

今後は、職員一人ひとりとの対話を大切にしながら、多様な視点を取り入れた運営を心がけてまいります。皆さまとともに、質の高い看護の実現と、地域に信頼される看護部を目指して、誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



P1 【巻頭言】 着任のごあいさつ

P2 【医学講座コーナー】 クオリティ・インディケーター (QI) とは？

P3 【医学講座コーナー】 クオリティ・インディケーター (QI) とは？

P4 【患者さんからのご意見・ご要望】 【編集後記】

【医学講座コーナー】クオリティ・インディケーター（QI）とは？

（クオリティ・インディケーター委員会 緒方 浩顕 委員長）

クオリティ・インディケーター（QI）とは？

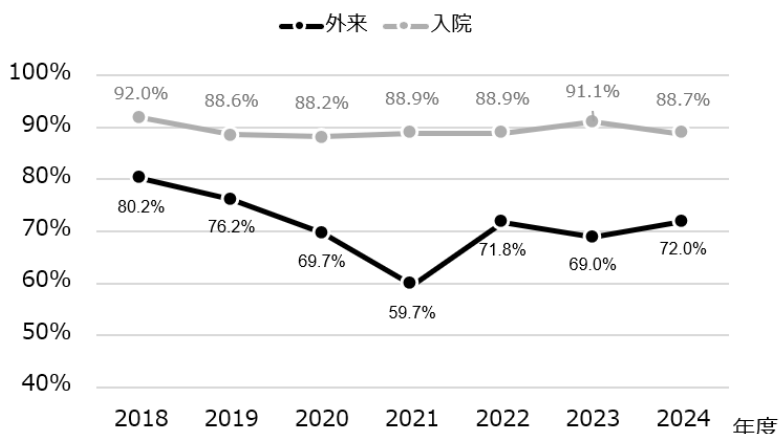
病院が提供する医療の質（クオリティ）をどのように評価したら良いのでしょうか？医療機関のクオリティを評価する様々な方法がありますが、その1つにクオリティ・インディケーター（QI）があります。QIには提供されている診療レベルの評価（医学的知見に基づいた指標の数値評価）だけでなく、職員や設備に対する患者さんや家族の方による評価も含まれています。QIを参考にすることにより各病院の質を比較出来ます。当院では日本病院会のQIプロジェクトに参加しており、共通のQIを規定された計算方法で算出した数値を病院ホームページに公表しています(<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/guide/report/>)。QIは医療機関間の比較が出来るだけでなく、自施設のQIを算出、解析することにより、問題点、課題の把握、改善に繋げることが出来ます。

2種類のクオリティ・インディケーター（QI）について

ここでは、2つのQIをご紹介します。まずは『患者満足度』（図-1）です。調査方法は、当院の外来患者さんや入院患者さんにアンケート調査し、有効回答数に対する「非常に満足」ないし「満足」との回答の比率を示しています。2024年度の『患者満足度』は、外来では72.0%（有効回答数558件）、入院では88.7%（同505件）でした。外来患者さんの数値はコロナ禍で一度低下した数値が徐々に改善傾向であることが判ります。入院では、9割程度の患者さんに「満足」と回答して頂くことが出来ました。

「不満」である理由では、外来の待ち時間に関するものが多く挙げられていました。「大学附属病院であり、待ち時間が長いことは理解するが、待ち時間の目安や順番を知りたい」と意見が多く見られました。今後、待ち時間を具体的にお知らせする方法について検討して参ります。また、効率的な診療を行うとともに、当院が推進する地域医療機関と連携する『二人主治医制』を活用し、当院への受診回数を減少できるような環境を整備していきます。午後外来や土曜日外来を活用して、外来予約数の平準化を図っていきます。その他の「不満」の原因として、トイレや病棟シャワー室の汚れ、清掃状態に対するものが指摘されました。清掃の徹底を図るとともに、経年劣化に対しては計画的に修繕を行っていきます。

図-1. 患者満足度

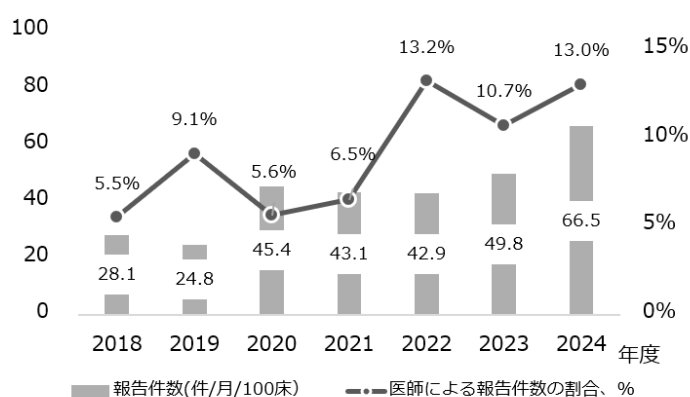


インシデント・アクシデントの報告数

次にご紹介するのは、『インシデント・アクシデント報告数』です。「インシデント」とは事故になりそうな事案、または事故になる可能性のあった事案であり、アクシデントとは「医療の過程で生じた、患者さんに意図しない傷害を引き起こした事案」になります。

図-2 には、100 床当たりの『インシデント・アクシデント報告』の月平均報告数を示しています。数字の経過をみると経年的に増加しています。一見すると、『インシデント・アクシデント』が増えており、問題のある病院では？との印象を受けますが、高度な医療を提供する医療機関では、一定の頻度で『インシデント・アクシデント』は生じており、その報告数が多いことは現場の医療安全に対する意識が高いことを示す指標と考えられています。そして、報告される事例を医療安全担当者が常時モニターし、問題点を把握、改善策を講じることにより安全で高度な医療を提供することが可能となります。『インシデント・アクシデント報告数』が増加していることは、当院で医療安全に対する高い意識が醸成されていることを示していると考えられます。また、全報告数に対する医師による報告比率も上昇傾向であり、医療チームのリーダーである医師の医療安全に対する意識も向上していると思われます。これ以外の QI については、病院ホームページ (<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/guide/report/>) をご参照下さい。全国の病院と比較して、胸を張ることが出来る QI もありますが、改善が必要なものもあります。患者さん、地域の住民の方々に自慢して頂けるような病院を目指して今後も努力して参ります。

図-2. インシデント・アクシデント報告数



当院で公開しているクオリティ・インディケーター

- 患者満足度：外来、入院
- 救急車・ホットライン応需率
- 紹介率・逆紹介率
- 死亡退院率
- 退院後予定外再入院率
 - ・ 30日以内
 - ・ 7日以内
- インシデント・アクシデント報告件数
 - ・ 全件
 - ・ 医師による報告の占める割合
- 褥瘡発生率
- 入院患者の転倒・転落
 - ・ 発生率
 - ・ 損傷発生率
 - ・ 65歳以上の転倒・転落発生率
- 18歳以上の身体抑制実施率
- 薬剤管理指導実施割合
- 感染症
 - ・ 広域抗菌薬使用時の血液培養実施率
 - ・ 広域抗菌薬使用までの培養検査実施率
 - ・ 血液培養実施率の2セット実施率

ホームページは、こちらからも
ご覧になれます。



患者さんからのご意見・ご要望・感謝の言葉

ご意見・ご要望	回答														
中央棟 1 階の公衆電話が設置されているスペースで、デスクと腰掛を使用して携帯電話をかけたのですが、その場所で長く食事をされている方が多く見受けられます。困ります。	ご意見ありがとうございます。携帯電話のご利用可能エリアは下記の通りとなっております。混雑している場合は、他のエリアのご利用もご検討ください。また、テーブル席でのお食事に関しましては、長時間のご利用をお控えいただくよう、掲示にてご案内をさせていただいております。以上、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。 (回答部署:管理課) <table border="1"> <thead> <tr> <th>中央棟</th><th>西棟</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9 階 レストラン</td><td>4 階 マタニティハウス個室</td></tr> <tr> <td>4～8 階 個室、デイルーム、エレベーターホール 公衆電話エリア (A 病棟側)</td><td>2 階 エレベーターホール</td></tr> <tr> <td>3 階 待合室</td><td>1 階 公衆電話エリア (緩和ケア病棟入口)</td></tr> <tr> <td>2 階 西棟連絡通路口、210 番血液浄化 (透析)</td><td></td></tr> <tr> <td>1 階 公衆電話エリア (130 番受付付近)</td><td></td></tr> <tr> <td>地下 1 階 公衆電話エリア (待合スペース)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	中央棟	西棟	9 階 レストラン	4 階 マタニティハウス個室	4～8 階 個室、デイルーム、エレベーターホール 公衆電話エリア (A 病棟側)	2 階 エレベーターホール	3 階 待合室	1 階 公衆電話エリア (緩和ケア病棟入口)	2 階 西棟連絡通路口、210 番血液浄化 (透析)		1 階 公衆電話エリア (130 番受付付近)		地下 1 階 公衆電話エリア (待合スペース)	
中央棟	西棟														
9 階 レストラン	4 階 マタニティハウス個室														
4～8 階 個室、デイルーム、エレベーターホール 公衆電話エリア (A 病棟側)	2 階 エレベーターホール														
3 階 待合室	1 階 公衆電話エリア (緩和ケア病棟入口)														
2 階 西棟連絡通路口、210 番血液浄化 (透析)															
1 階 公衆電話エリア (130 番受付付近)															
地下 1 階 公衆電話エリア (待合スペース)															
駐車場代の支払いをキャッシュレスも可能にしてほしい。衛生面でも良いと思う。	ご不便をおかけして申し訳ありません。現在設置しております駐車場機器は、現金以外でのお支払いには対応しておりません。今後、機器の更新を行う際には、キャッシュレス決済への対応も含めて検討させていただきます。この度は貴重なご意見ありがとうございます。 (回答部署:管理課)														
入院中、看護師の皆さんにとっても親切にしてください、初めての入院でしたが、快適に過ごすことができました。また、食事とても美味しく、完食できなかったことが一度もありませんでした。もうないことを祈りますが、また入院することがあれば、こちらにお願いしたいです。ありがとうございました。お世話になりました。	この度は温かいお言葉をいただき、スタッフ一同感謝しております。 いただきましたお言葉を励みに、今後も患者さんが安心・安全な療養環境で入院生活を送れるよう誠心誠意努めてまいります。 (看護部) この度はお褒めの言葉をいただき誠にありがとうございます。 今後も、スタッフ一同、美味しいお食事を提供できるよう日々精進してまいります。 (栄養科)														

編集後記

蝉の音が響き渡り、夏本番の訪れを感じる季節となりました。8 月は花火大会や海水浴、夏祭りなど楽しい行事が多く、気持ちも華やぐ時期です。しかしその一方で、熱中症や脱水症、皮膚疾患など、暑さに関連した健康トラブルが増える季節でもあります。なかでも紫外線による皮膚炎や日焼けは、軽視できないリスクのひとつです。シミやシワの原因となるだけでなく、皮膚がんのリスクを高める可能性もあります。そのため、日焼け止めを正しく使用することが肌を守る鍵となります。外出の 20～30 分前に塗布し、2～3 時間ごとに塗り直すことが推奨されています。また、汗や水に強いタイプを選んだり、屋外での活動時には SPF・PA 値の高い製品を選ぶことも重要です。私自身も、日差しの強い日は出勤前や外出時に忘れず日焼け止めを塗ることを習慣としています。皆さまもぜひ、ご自身の肌を守るために正しい紫外線対策を取り入れ、健やかに盛夏をお過ごしください。

(皮膚科 山口文太郎 助教)



北部病院だより 第 206 号 (2025 年 8 月 1 日発行)
 発行責任者 坂下 暁子 (昭和医科大学横浜市北部病院長)
 編集責任者 緒方 浩顕 (広報委員会 委員長)
 発行 昭和医科大学横浜市北部病院
 〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
 電話 045-949-7000(代表)

URL : <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。